



第1回苫小牧市 多文化共生指針策定準備会議

会議資料

1. 多文化共生指針策定の目的



多文化共生とは

【定義】

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、
対等な関係を築こうとしながら、ともに生きていくこと
(総務省「多文化共生推進プラン」2006)

一つの国・社会に複数の民族・人種などが存在するとき、それらの異なった文化の共存を積極的に認めること (広辞苑)



- ・ 「多文化共生」は社会のあり方を示したもの⇒終わることはない
- ・ 一人一人が姿勢を示すことが、多文化共生社会の形成の一步
- ・ 「ちがい」を「受入れ」、ともに「変化」することが「共生」



【背景】

本市における在住外国人は、急増している。また、国籍・在留資格の多様化や人材不足の観点から働く外国人の増加が見られる。

【目的】

都市再生CPを具現化し、本市の課題解決と成長戦略の一つとして、外国人材活躍社会の実現と地域の生活者として「日常的に」外国人と日本人が共生する社会のあり方を示した「苫小牧市多文化共生指針」を令和6年度に策定するもの。



「地域における多文化共生推進プラン」改訂の概要

別紙2

【施策】

① コミュニケーション支援

行政・生活情報の多言語化（ICTを活用）、相談体制の整備

日本語教育の推進

生活オリエンテーションの実施

② 生活支援

教育機会の確保

適正な労働環境の確保

災害時の支援体制の整備

医療・保健サービスの提供

子ども・子育て及び福祉サービスの提供

住宅確保のための支援

感染症流行時における対応

③ 意識啓発と社会参画支援

多文化共生の意識啓発・醸成

外国人住民の社会参画支援

④ 地域活性化の推進やグローバル化への対応

外国人住民との連携・協働による地域活性化の推進・グローバル化への対応

留学生の地域における就職促進

多文化共生施策の推進体制の整備

地方公共団体の体制整備

地域における各主体との連携・協働

多文化共生の推進に係る指針・計画の策定

【背景】

○日
従
「

○都
推
外
観

【施策】

目

目

目

目
地
域



第1回苫小牧市 多文化共生指針策定準備会議

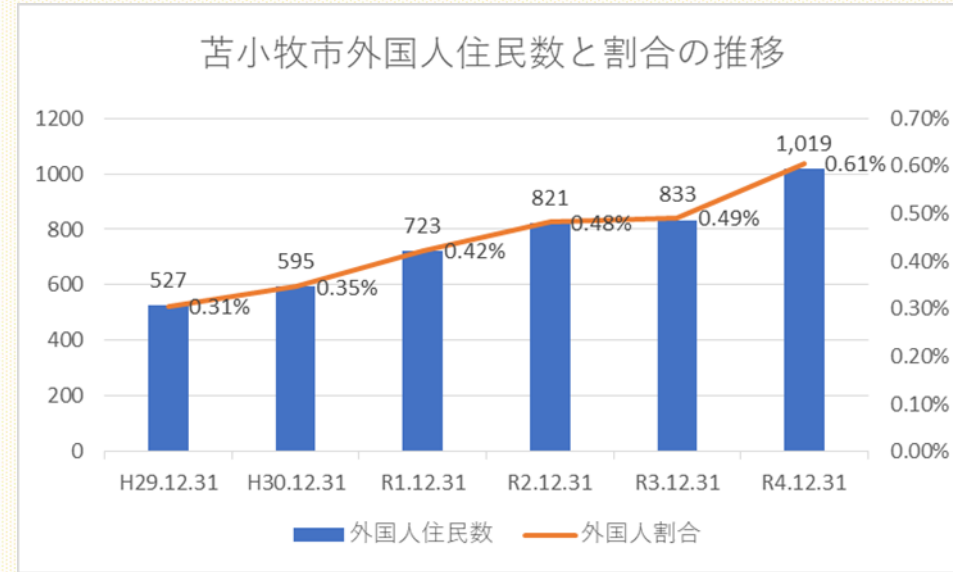
会議資料

2. 苫小牧市の外国人の状況 ～多文化共生指針策定の背景～

苫小牧市の外国人住民状況

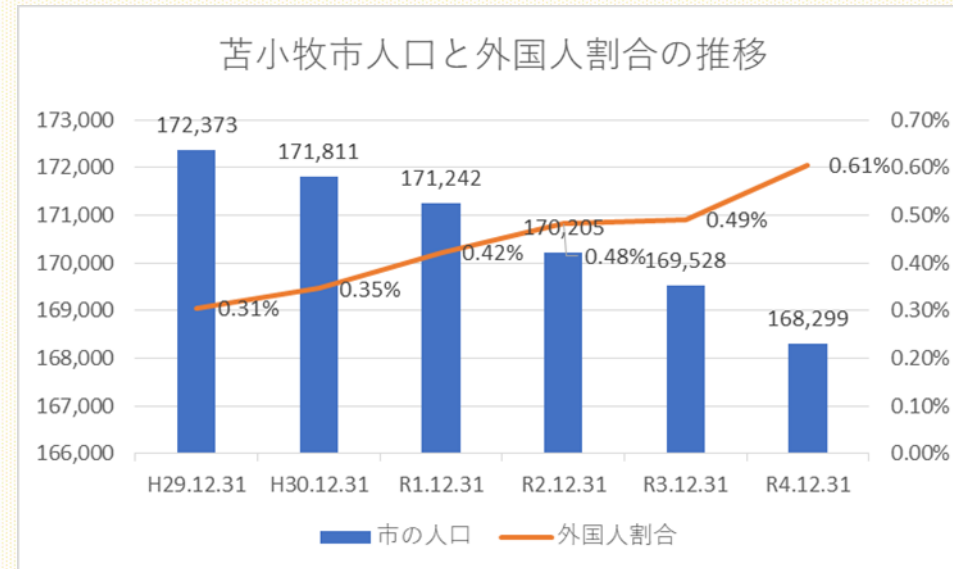


- 外国人住民数 1,102人 (R5.4末)
 - 人口の 約0.66%
 - (市民の人口 167,457人)
- ※5年前(平成30年1月1日)と比較すると
市の人口は4,916人減少
外国人は575人増加



外国人住民の推移

	H29.12.31	H30.12.31	R1.12.31	R2.12.31	R3.12.31	R4.12.31
市の人口	172,373	171,811	171,242	170,205	169,528	168,299
外国人住民数	527	595	723	821	833	1,019
外国人割合	0.31%	0.35%	0.42%	0.48%	0.49%	0.61%



外国人割合の予測

予測(苫小牧市)	2022年		2025年	2030年
外国人数	1,019	⇒	1,705	4,021
外国人割合	0.61%	⇒	1.02%	2.41%

2017~2022年の前年比増加率：平均19%増が続いた場合の予測値

(コロナ禍の影響が大きい2019~2021年のデータを除く)

北海道内の外国人住民の状況（令和5年3月末日）



人口順			外国人住民数順			外国人割合順		
1	札幌市	1,957,253	1	札幌市	15,961	1	占冠村	22.55%
2	旭川市	322,512	2	倶知安町	1,454	2	赤井川村	14.35%
3	函館市	242,497	3	函館市	1,352	3	ニセコ町	9.59%
4	<u>苫小牧市</u>	<u>167,493</u>	4	旭川市	1,318	4	倶知安町	9.55%
5	帯広市	163,202	5	帯広市	1,056	5	留寿都村	9.40%
6	釧路市	159,022	6	<u>苫小牧市</u>	<u>1,036</u>	6	雄武町	5.72%
7	江別市	118,775	7	釧路市	984	7	猿払村	5.26%
8	北見市	112,283	8	千歳市	888	8	東川町	4.87%
9	小樽市	107,909	9	江別市	853	9	長万部町	4.50%
10	千歳市	97,395	10	小樽市	740	10	新冠町	4.43%
							<u>苫小牧市</u>	<u>0.62%</u>

「この情報は北海道のオープンデータを改変して利用しています」

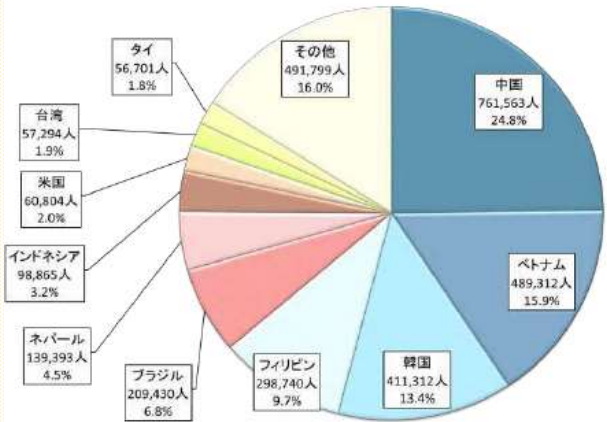
- 外国人住民数や割合は地域によってばらつきがある
- 苫小牧市は外国人住民数で全道上位であるが、割合としては低い

苫小牧市の外国人住民の特徴（国籍別・在留資格別）



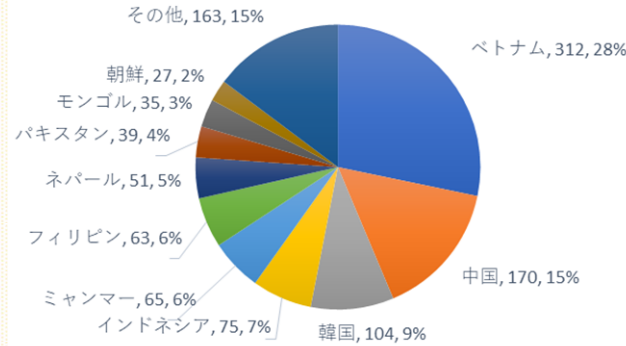
全国（国籍別）

【第3図】 国籍・地域別 在留外国人の構成比（令和4年末）



苫小牧（国籍別）

国籍別割合（R5.4末）

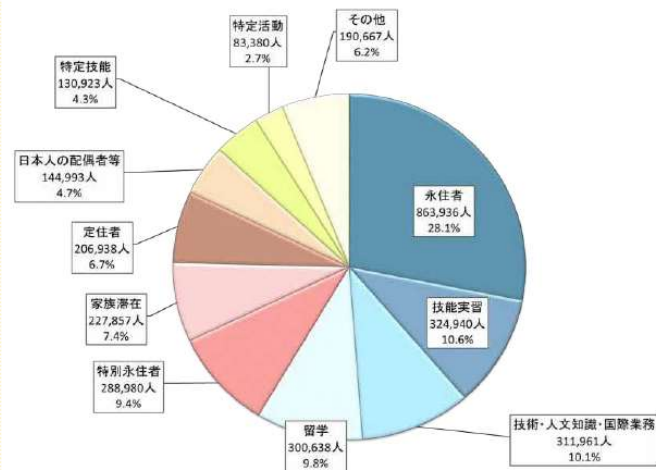


苫小牧市の特徴

- ・ベトナム、中国、韓国、インドネシアの順
- ・全国の状況と比較し
- ・ベトナム、中国の順に多く、逆の順位
- ・インドネシアが多い
- ・他の国籍は全国の状況と類似

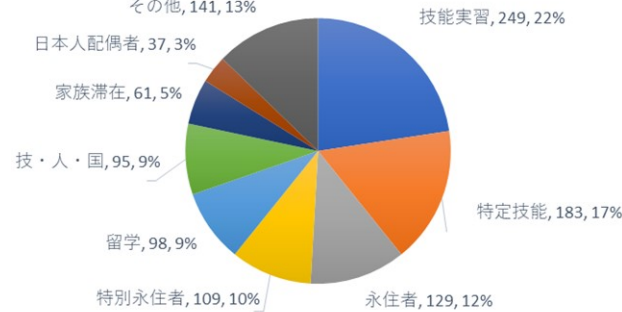
全国（在留資格別）

【第2-2図】 在留資格別 在留外国人の構成比（令和4年末）



苫小牧（在留資格別）

在留資格別割合（R5.4末）



苫小牧市の特徴

- ・技能実習生、特定技能など働く外国人が多い
- ・全国・全道平均と比べ男性が多い（7:3）
- ・全国の状況と比較し
- ・技能実習・特定技能の割合が多く、永住者の割合が少ない

苫小牧市の外国人住民の特徴（国籍×在留資格）



	R5.4.30	主な在留資格（10名以上）
ベトナム	312	技能実習165 特定技能86 特定活動36 技・人・国10
中国	170	留学59 永住者52 技・人・国17 家族滞在10
韓国	104	特別永住者82 永住者14
インドネシア	75	特定技能49 技能実習21
ミャンマー	65	特定技能30 技能実習17
フィリピン	63	永住者20 技能実習17
ネパール	51	家族滞在20 技能10
パキスタン	39	家族滞在18 技・人・国12
モンゴル	35	技能実習24
朝鮮	27	特別永住者27
その他	163	
計	1,102	

【国籍別に見た在留資格】

・国籍により在留資格の特徴は様々である

	R5.4.30	主な国籍（10名以上）
技能実習	249	ベトナム165 モンゴル24 インドネシア21 フィリピン・ミャンマー各17
特定技能	183	ベトナム86 インドネシア49 ミャンマー30
永住者	129	中国52 フィリピン20 韓国14
特別永住者	109	韓国82 朝鮮27
留学	98	中国59
技・人・国	95	中国17 パキスタン12 ベトナム10
家族滞在	61	ネパール20 パキスタン18 中国10
日本人配偶者	37	
その他	141	
計	1,102	

【在留資格別に見た国籍】

・技能実習・特定技能が多い
⇒まだ単身者が多いフェーズ



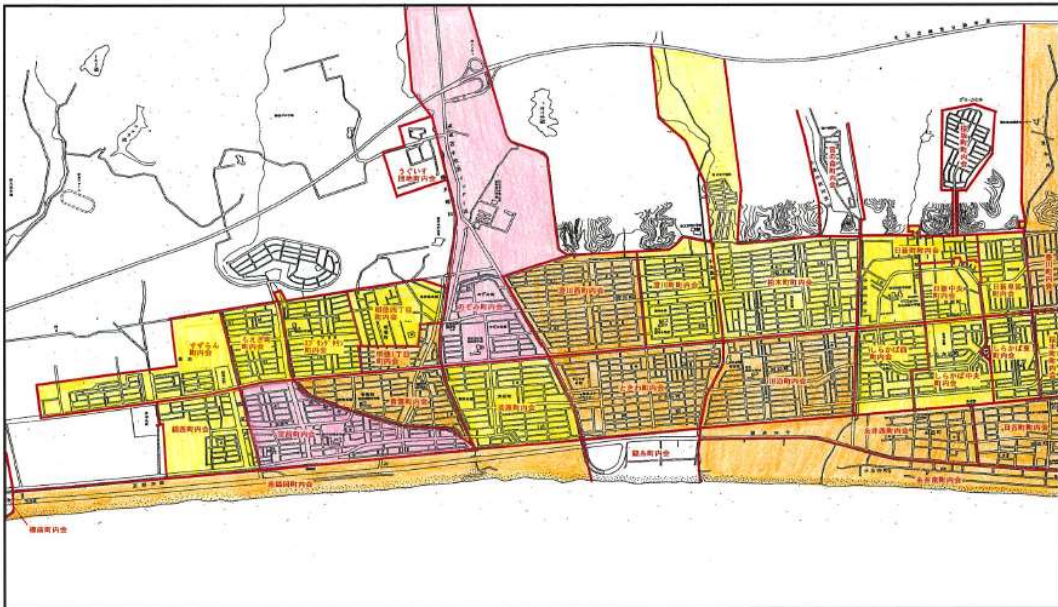
今後、家族滞在も含め多様な在留の形が想定

苫小牧市の外国人住民の特徴（地域別）



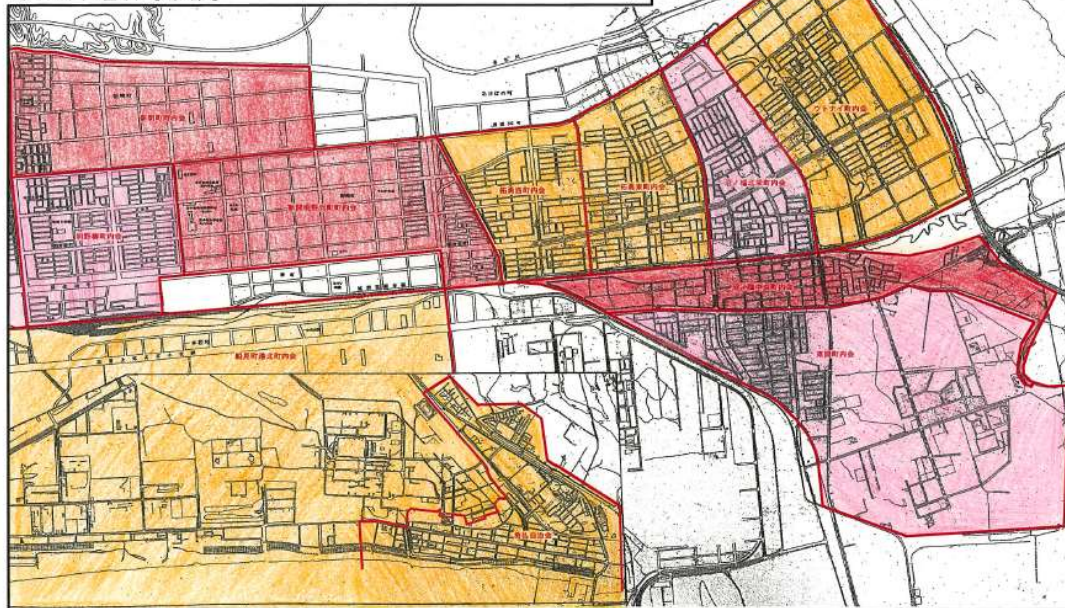
西部

町内会位置図【西部】

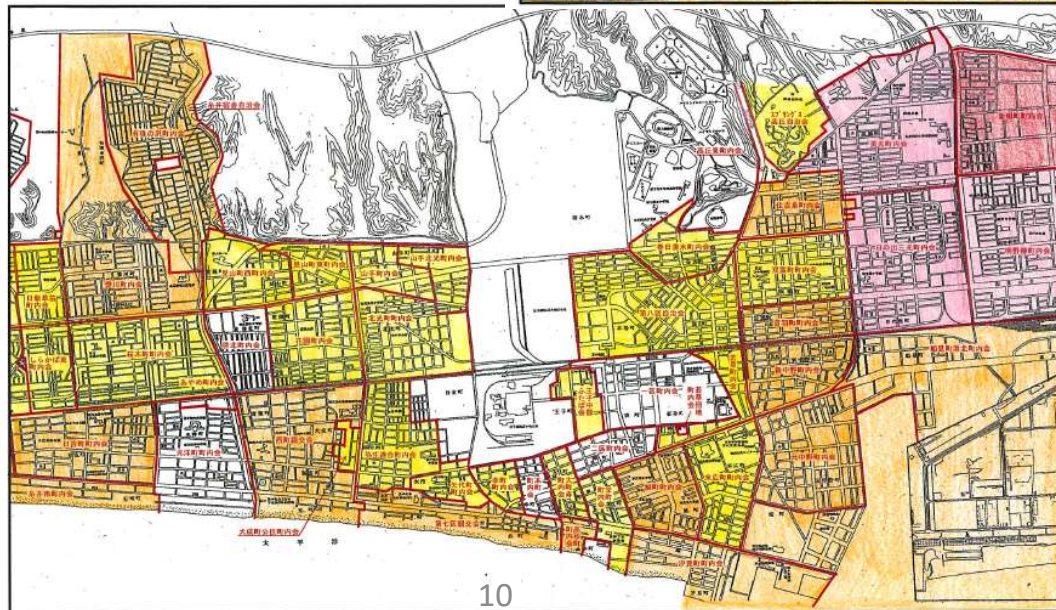


東部

町内会位置図【東部】



中央部



- ・ 0人
- ・ 1～9人
- ・ 10～30人
- ・ 31～50人
- ・ 51人以上





西部地域の特徴 住民数**271**人（全体の**27%**）

国籍別住民数 ①中国 ②ベトナム ③韓国 ④パキスタン

資格別住民数 ①留学生 ②技能実習 ③永住者 ④特別永住者

中央地域の特徴 住民数**380**人（全体の**38%**）

国籍別住民数 ①ベトナム ②中国 ③韓国 ④フィリピン

資格別住民数 ①技能実習 ②特別永住者 ③特定技能 ④永住者

東部地域の特徴 住民数**337**人（全体の**34%**）

国籍別住民数 ①ベトナム ②ミャンマー ③フィリピン ④韓国

資格別住民数 ①技能実習 ②特定技能 ③技・人・国 ④永住者

・外国人住民は市内全域に在住している
⇒外国人が存在しない地域はほとんどない

・外国人の国籍・在留資格の特徴は地域によって異なる
⇒その地域の特徴に応じて共生に向けた考え方が大切



第1回苫小牧市 多文化共生指針策定準備会議

会議資料

3. 令和4年度に実施した調査・相談窓口から見る課題
～別紙資料参照～

令和4年度に実施した調査・相談窓口から見る課題



市内外国人雇用事業所向けアンケート・ヒアリング（R4）

目的：外国人を雇用している市内企業の実態や課題等を把握し、企業との連携を促進すると同時に、本市の多文化共生指針策定や各種施策に反映させることを目的とする。

対象企業：工業雇用振興課のアンケートに回答のあった市内の外国人雇用企業

調査期間：令和4年6月29日から令和4年11月16日まで（調査件数55件・回答数36件）

北洋大学留学生向けアンケート（R4）

目的：都市再生CPに掲げる「多文化共生」の実現に向け、本市留学生に対して、在学中におけるニーズやキャリアについて調査を行い、留学生の卒業後の市内定着や地域連携を目的とした新規事業の検討につなげる。

調査期間：令和4年9月 回答数：北洋大学に在学する留学生43名

国際交流サロン 外国人相談窓口（開設時間：平日の8時45分～17時15分）

場所：苫小牧市役所7階 国際交流サロン※外国人受入環境整備交付金活用（R2整備）

対応言語：中国語、英語、日本語（その他は翻訳機対応）

相談方法：対面・メール・LINE





【一部を抜粋】

- Q 外国人雇用を行う理由
 - A. 雇用理由は優秀な人材確保 真面目で熱心な人材が多い
- Q 雇用時や雇用後の課題・問題点
 - A. 日本語力不足・手続の煩雑さ・文化習慣の違い・生活面のフォローなど
- Q 雇用中の外国人に対する企業独自の取組や配慮について
 - A. 住居確保・日本語教育・家具家電等生活用品の準備を実施する企業が多い
- Q 今後の外国人雇用について
 - A. 一定の企業（45%）がさらなる受入れを希望
- Q 市に求める外国人支援
 - A. 企業から市への要望としては、日本語教育支援・行政手続き支援・生活支援



- 市内に監理団体があるとより安心。特に市が運営に関わる監理団体があるとより安心。
 - ゴミ分別、冬の生活など地域に特化した行政手続き・生活オリエンテーションの実施。
 - 日本の文化や習慣についての理解が課題（換気・騒音・交通ルール）。
 - 外国人相談対応・イベント等の情報発信を充実して欲しい（仕事外に相談できる場（夜間や休日）があると安心）。
 - 日本語能力の向上は業務だけでなく生活の充実にもつながるので、仕事をしながら日本語学習ができる場（閑散期・夜間・休日）の開設。
 - 外国人という理由でアパート（住居）を借りるハードルが高く、会社借上等で対応しているが、貸主側の理解が課題がある。また、住環境に関する助成金があると助かる。
 - 外国人が活躍できる場づくりも必要。
 - 外国人同士が交流できる場を市で提供してもらえると会社側は安心して行かせられる
- ⇒変なコミュニティとつながり、トラブルに巻き込まれたり、他社に迷惑をかけるのは不安



北洋大学・・・市内唯一の四年制大学 2021年に名称変更（経営移管）

苫小牧駒澤大学時代から留学生の受入を積極的に実施

設置学部：国際文化学部キャリア創造学科

- ・北洋大学への留学の理由や留学中に身につけたいことは様々である
 - ・卒業後の進路希望は非常に幅広いが、苫小牧で人材不足である製造・建築・介護職などを希望する学生はいない
 - ・卒業後も日本で働きたい学生は多いが、苫小牧で働きたい学生は少数である
 - ・大学以外で地域でのつながりを持っている学生は2割程度にとどまり、大学以外で同国籍とのコミュニティを持っている学生も少ない
 - ・アルバイトをしている学生は、地域のつながりを持つきっかけとなっている
- ⇒地域とのつながりを持つことで、学生生活の充実や卒業後の定着につながる可能性



- 職員の対応可能な言語が日本語・英語・中国語のため、その言語の相談が多い
 - ベトナム、韓国籍からの相談は少ない（言語対応ができる職員がない）
 - 日本語学習の相談が増加傾向にある
 - 一度相談をした相談者は繰り返し、相談に来る傾向にある
 - 相談窓口を認知をしている外国人住民でも仕事などの都合上、現在の開設時間（市役所の開庁時間）だと気軽に行くことができない。
- ⇒実際、生活の中で困りごとがある人はいるとの声もある
- 上記の問題から、働く外国人（労働者）からの相談（生活相談を含め）は限定的という印象
 - 最近では、保育園・幼稚園の入園関係、学校の入学関係、年金通知書の読み方や制度の説明、マイナンバーカード手続き、コロナ関連の給付金手続き、健診関係など相談内容が非常に多岐にわたる

令和4年度相談件数としては136件と増加傾向（前年比53件増）



第1回苫小牧市 多文化共生指針策定準備会議

会議資料

4. 令和5年度事業と準備会議の範囲について

苫小牧市多文化共生指針策定に向けた流れ



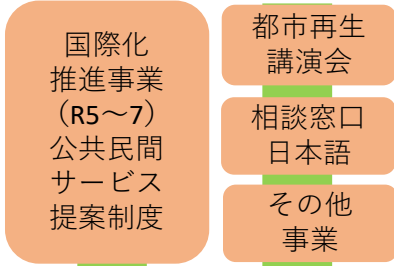
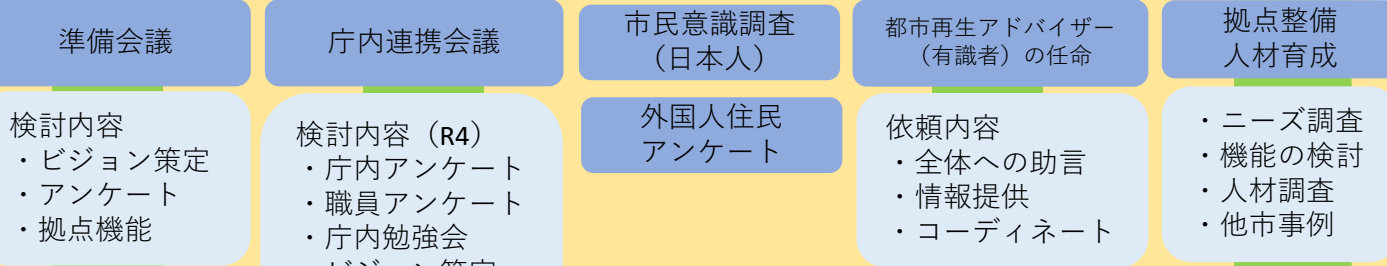
背景：本市における在住外国人は、急増している。また、国籍・在留資格の多様化や人材不足の観点から働く外国人の増加が見られる。
 目的：都市再生コンセプトプランを具現化し、本市の課題解決と成長戦略の一つとして、外国人材活躍社会の実現と地域の生活者として「日常的に」外国人と日本人が共生する社会のあり方を示した「苫小牧市多文化共生指針」を令和6年度に策定するもの。

R4
年度

- 多文化共生事業の立ち上げ（国際化推進事業・都市再生講演会・北海道モデル事業・厚生労働省モデル事業など）
- 多文化共生に関する各調査（外国人雇用事業者向けアンケート及びヒアリング・北洋大学留学生向けアンケート）
- やさしい日本語・多言語による行政・生活情報誌作成事業
- その他（国際化推進事業公共サービス民間提案制度R5～7事業者決定・外国人相談窓口・日本語教室運営）

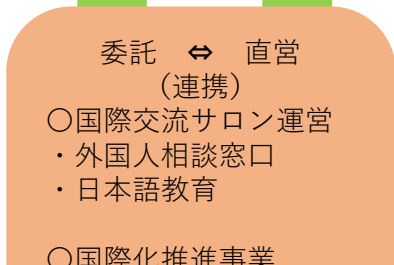
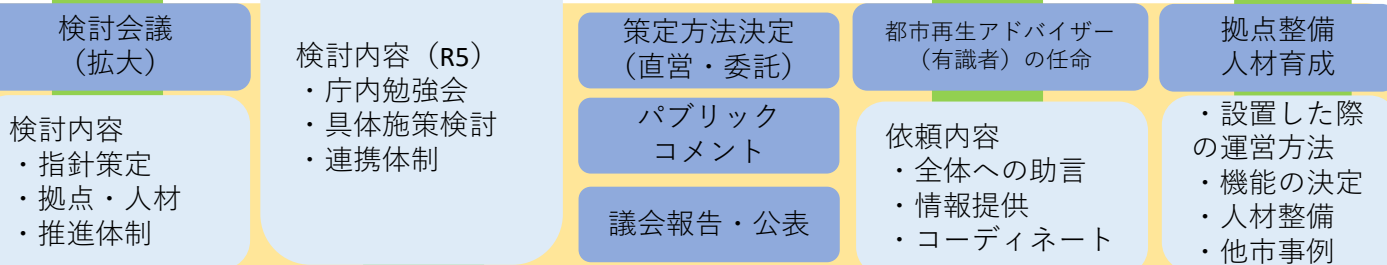
R5
年度

ビジョン
の策定
(秋頃)



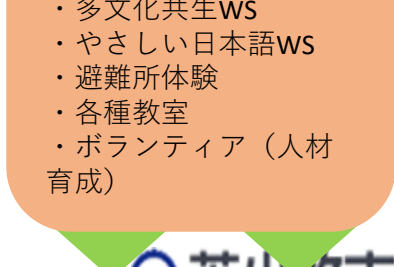
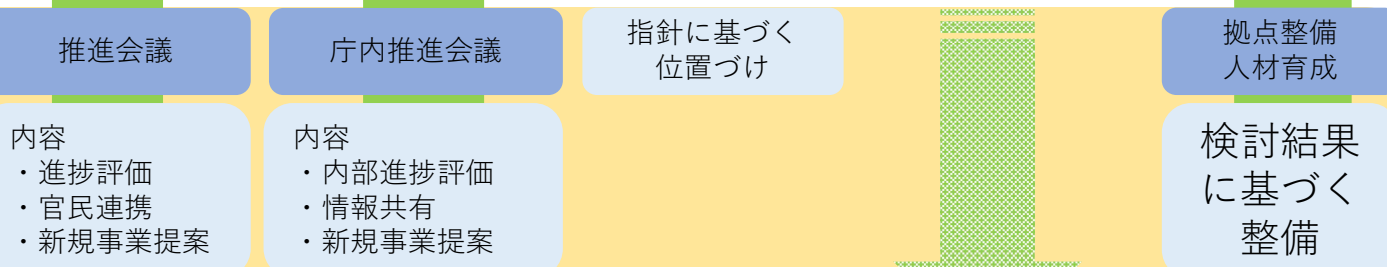
R6
年度

指針
の策定



R7
年度

指針
の推進



令和5年度多文化共生に関する事業



指針策定に向けた事前整備事業

令和6年度の指針策定に向け、体制整備と事前基礎調査を実施し、基盤作りを行うもの。

多文化共生指針策定
に向けた準備会議

市民意識調査
(日本人)

庁内連携会議の組成

外国人住民
アンケート

都市再生アドバイザー
(有識者) の任命

拠点整備に向けた
検討

国際化推進事業（公共サービス民間提案制度）

多文化共生社会の形成に向け、日本人と外国人が一緒に参加する事業等の企画・実施。

相談窓口機能
(LINE) の充実

子ども向け事業

ホームページ等の
機能の充実

日本語学習支援事業
中国語・英語等の教室

外国人向け
事業

ボランティアに
対する人材育成事業

準備会議における議論の範囲

～指針策定に向けた事前整備事業の内容について、事務局が設定する諮問内容について意見交換を行う～



苫小牧市多文化共生指針策定に向けた準備会議の概要

苫小牧市多文化共生指針を策定するにあたり、準備内容や策定内容の協議を行う機関

- ▶ 年4回（予定）の会議において、事務局から提示された内容について意見交換を行う
- ▶ 指針の策定に向けた事業に関する事／指針の策定に関し必要な事項に関する事。

○事業のスケジュールおよび主な議題について（予定）

第1回
5月22日

- 委員委嘱・紹介、有識者・事務局紹介、委員長の選任
- 苫小牧市の多文化共生に向けた取組、現状説明
- 準備会議の事業スケジュールと議題説明

第2回
7月下旬

- 苫小牧市多文化共生ビジョン（案）の提示
- 多文化共生市民アンケート（案）の提示（在住外国人向け・日本人市民向け）

第3回
10月下旬

- 苫小牧市多文化共生ビジョン（最終案）の提示
- 多文化共生市民アンケート中間報告（在住外国人向け・日本人市民向け）
- 多文化共生に関する拠点の必要性と機能について

第4回
1月下旬

- 多文化共生市民アンケート最終報告（在住外国人向け・日本人市民向け）
- 苫小牧市多文化共生指針の骨子（案）の提示
- 令和6年度の事業予定について

令和6年度の多文化共生指針策定事業につなげる



苫小牧市多文化共生庁内連携会議の概要

多文化共生のまちづくりを推進するための庁内連携組織

- ▶ 多文化共生に関する情報交換及び連絡調整に関すること / 多文化共生に関する施策の検討及び推進に関すること
- ▶ 多文化共生のまちづくりの推進に関し必要な事項

○庁内連携会議の構成（原則課長職）⇒各部横断的に庁内30～40課程度で構成

○会議の開催（予定）

第1回
4月21日

- 苫小牧市多文化共生指針策定について
- 令和5年度の事業予定について

第2回
5月22日

- 本市の外国人住民の現況と相談窓口や既存調査に寄せられた課題の共有
- 庁内アンケートの実施について

第3回
8月下旬

- 苫小牧市多文化共生ビジョン（案）について
- 庁内アンケートから見える課題
- 多文化共生市民アンケート（案）の提示（在住外国人向け・日本人市民向け）

第4回
12月中旬

- 多文化共生市民アンケートの結果共有
- 苫小牧市多文化共生指針骨子について

庁内勉強会① 時期：5月22日 対象：関係課長
テーマ「苫小牧市多文化共生指針策定に向けて各課に必要な視点について」

庁内勉強会② 時期：冬頃 対象：係長職以下
テーマ「 」



都市再生アドバイザー（有識者）概要

- ▶ 新たな分野、国の施策に精通し、柔軟な対応ができるクリエイティブ人材の確保
- ▶ 複雑化する社会課題の解決に向け、産学官連携を強化するためのネットワーク構築
- ▶ 選ばれるまちになるためのデザイン力、発信力の強化

○都市再生アドバイザー（多文化共生分野）

田村 太郎 氏（ダイバーシティ研究所代表理事）

※復興庁復興推進参与、多文化共生マネージャー全国協議会副代表理事、各省庁会議構成員など

本市での
活動実績

H26講演会
講師

R4都市再生講演会講師
意見交換会

R4北海道モデル事業
講師

R4北海道モデル事業
講師

R4市長とジェンダー
ミーティング講師

○依頼事項

- ・ 苫小牧市多文化共生指針策定準備会議および庁内連携会議への参加
- ・ 外部人材とのネットワーク構築
- ・ R6年度の指針作成に向けたトータルコーディネート
- ・ 令和5年度に実施する各種調査事業の手段・内容についてのアドバイス
- ・ 国の関連施策と予算措置、先進地事例等の情報収集

苫小牧市在住外国人向けアンケート調査



苫小牧市在住外国人向けアンケート調査の概要

苫小牧市多文化共生指針策定に向けた基礎的調査を行う

- 素案を準備会議に諮るとともに、回収率向上のために、英語版、中国語版、ベトナム語版を作成する
- 指針策定の基礎的資料として活用するとともに本分野の施策に関する課題抽出や目標管理、重要な指標とする

○対象：苫小牧市在住外国人（中学生以上 約1,000人 基準日を今後決定する）

	項目	内容
構成 (案)	基礎事項	性別・年齢・国籍・在留資格・在住期間・言語など
	はたらく（仕事）	職種・仕送り・労働環境・働きやすさなど
	くらす（生活）	生活全般（交通・医療・災害・情報など）・暮らしやすさ
	まなぶ（日本語）	日本語能力・学習状況・学習内容のニーズなど
	にぎわい（地域・多様性）	外国人からみた苫小牧、地域との交流状況など
	スケ ジュール (案)	～6月
7月		素案決定（事務局）・翻訳業者契約
7月		第2回準備会議にアンケート案を提示し意見交換
8月		アンケート決定・翻訳開始・対象世帯抽出
9～11月		アンケート配布・回収・第3回準備会議で中間報告
12～1月		結果を整理し、第4回準備会議や庁内連携会議で報告

苫小牧市民（日本人）向け市民意識調査



苫小牧市民（日本人）向け市民意識調査の概要

苫小牧市多文化共生指針策定に向けた基礎的調査を行う

- ▶ 本市の現状把握や多文化共生の取組の啓発機会とする
- ▶ 指針策定の基礎的資料として活用するとともに本分野の施策に関する課題抽出や目標管理、重要な指標とする

○対象：苫小牧市民（日本人：中学生以上 無作為抽出2,000人）

項目	内容
基礎事項	性別・年齢・国籍・在留資格・在住期間・言語など
意識調査	外国人状況・多文化共生・やさしい日本語の理解など
外国人との交流状況	交流の場（職場・地域・イベント）・今後の必要性
外国人に対する意識	地域社会への影響・相互理解に向けて必要な環境など

スケジュール（案）	内容
～6月	庁内課題アンケートの回収
7月	素案決定（事務局）・翻訳業者契約
7月	第2回準備会議にアンケート案を提示し、意見交換
8月	アンケート決定・翻訳開始・対象世帯抽出
9～11月	アンケート配布・回収・第3回準備会議で中間報告
12～1月	結果を整理し、第4回準備会議や庁内会議で報告



◆ 苫小牧市多文化共生ビジョンの目的

【多文化共生ビジョンとは】

苫小牧市多文化共生指針策定に先立ち、本市の基本的な考え方と方向性を示し、外部に発信するもの。また、市民・企業・学校など全市民が今後の取り組みのベースとなるもの。

○参考事例

長岡市「地球広場」多文化共生ビジョン（2017.2.25）／立川市「多文化共生都市宣言」（2016.12.19）

構成 (案)

- 本市の特色を生かしたテーマ・キャッチフレーズ
- 互いの違いを認め合い、受け入れる環境づくり
- 職場や学校、地域における対等で双方向の関係づくり
- 国際的な視点を持ち、地域の成長につなげるチャレンジ
- 多様な視点を持ったグローバルな人材育成

スケ ジュール (案)

～6月	先行調査・素案作成（事務局）
7月	第2回準備会議に案を提示し、意見交換 国際化推進事業等と連携し、外国人住民との意見交換
8～9月	第3回庁内会議に案を提出、修正作業、案を決定
10月	ビジョン案を第3回準備会議に報告
11月以降	ビジョンの公表